

車いす修理技術講習会

神奈川工科大学車いす修理屋（KWR）

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野 1030

助成事業の概要

目的は3つある。1、タイにコンテナ船で送った車いすを点検、修理、輸送により不具合があるか情報収集すること。2、タイの高校生に修理技術を伝え、現地の方々のみで修理ができるようにすること。3、車いす利用者に車いす適合を行った上で車いすを寄贈すること。車いすの正しい使い方をする事で、骨の変形など今後の生活に支障をきたすような副作用を防止する。

今回は、8月23日（金）— 8月28日（水）にタイで実施。活動内容は、日本、タイ、韓国、台湾のボランティアが集まり、現地で車いす修理を行った。さらに、タイの高校生ボランティアに技術講習を行った。タイには159台寄贈しました。

活動3日目に、カンチャナブリにある病院で実際に利用者へ車いすを寄贈した。その際 FWS が中心となり約50人に車いす適合をし、利用者に合う車いすを寄贈しました。

事業の成果

車いすはコンテナ船輸送した139台と当日持参した20台を全て寄贈できました。タイの高校生への修理講習は、ジェスチャーや通訳によって、修理の方法を教えました。彼らは工業高校生だったので、工具を使用した作業には慣れており、2日目には自分達で車いすを修理出来るほど上達していました。タイの高校生ボランティアは今後も車いす修理を続けたいと言っていました。

国際交流をすることで、日本では味わうことので

きない体験をすることができたと、日本の高校生、大学生ボランティア全員が感じていた。タイ語、英語を使用しなければならないのかと不安があったメンバーもいた。しかし、彼らは英語が通じなくとも同じ目的で活動しているため、自分の気持ちが伝わり一緒に作業をすることが出来た。

3日目の病院の活動には、100人を越える人達が待っていました。初めて車いすに乗る方や、元々車いすに乗っているが古くて使いづらい車いすであった為新しい車いすを求めている方などがいた。対象者の意見、使用環境、身体状況に適応した車いすの選択・及び身体への適合評価を行い、50人以上の方々に渡すことができました。

また、寄贈した利用者の自宅を2軒訪問しました。2軒とも初めて車いすを使用する方達でした。1人目は、寝たきりのお爺さんだった。自宅は高床式住宅だった。しかし、お爺さんは家の下で寝たきりでした。家に入る為には階段を使用するため、やむを得ずそこでの生活となるとのことでした。住宅の周りは田んぼや畑しかなく、目立った建物は全くありませんでした。

2人目も寝たきりのお婆さんだった。さらに、家は「家」とは言い難いものでした。屋根はテントのように葉っぱを使用しており雨漏りがしそうな屋根でした。家の中もとても住みづらい様子でした。彼女の息子が働き詰めであり、面倒を見ることは難しい為、ボランティア各方がローテーションで彼女の生活をサポートしていました。

現地の環境を実際に見たり、体験したことでプロジェクトの参加者は、この活動を継続することの必要を感じ、また寄贈後のフォローや適合の難し

さなど今後の課題も実感できた。

直接利用者の車いすを適合することで、その方の生活を少しでもサポートすることが出来るのではと考えています。

■ 成果の広報、公表

1. タイの活動の写真を全社協アジア研修生の方々（韓国、台湾、タイ）に配信。
2. 新潟医療福祉大学 FWS は、10月に学内学会で発表。
3. 神奈川工科大学 KWR は、11月の学園祭で発表。
4. 11月24日に都立北豊島工業高校で発表。（都立蔵前工参加）
5. 12月に韓国（ソウル、釜山）を訪問して発表。（恩平天使園、27日、釜山障害者福祉館、29日）

■ 今後の展開

病院で質問したデータを集めて今後の諸外国で活動する際、どのような車いすを求めているのか、患者の症状の割合など、適合の参考になるようにしたいと考えています。

従来は活動では、車いすの修理と寄贈のみを目的としていたが、今回は適合までを目的をしたことで今後のプロジェクト活動の目的を大きく変えることができました。

私達が実際に車いすの適合を行うことで、利用者の今後の生活に支障をきたすような新たな病気を防止することができます。これにより、ただ単に車いす寄贈するよりも、さらに意味のある「寄贈」ができるのではないかと考えました。

今後も利用者の属性と車いすの種類データを収集し、諸外国での活動において、現地で必要とされている車いすの種類や属性を認識することができます。

まだまだ、アジアもしくは世界では車いすが必要とする人がいます。私達が実際に現地へ赴き、